

遺跡に行こう

「埋蔵文化財」という言葉を聞いたことはありますか？

埋蔵文化財とは、私たちのご先祖さまたちの生活の痕跡や、使っていた道具など、土の中に眠っている遺跡や遺物のことを示す言葉です。これらは、発掘調査などによって永いながい眠りからようやく目を覚まし、私たちの前に姿を現してくれます。遺跡や遺物と聞くと、「大昔のことでしょう」とか、「山梨県にあるの？」などと思うかもしれませんが、でも、本当は見慣れた景色の中に埋もれているだけで、あなたの身近なところにも、大昔のご先祖さまたちが残してくれた「お宝」があるのです。

今回は、甲府盆地北西側で発見された遺跡や遺物・古墳を紹介します。このマップを片手にそんな「お宝」を探しにいきましょう。



谷戸城跡①の土塁

甲府盆地北西部は遺跡の宝庫！

旧石器時代(約 38,000～15,000 年前) 日本列島に人類が住み始めた時代で、石の槍などを使ってナウマンゾウやヘラジカなどの大型の動物の狩りなどをして暮らしていました。北杜市の丘の公園 14 番ホール遺跡では、槍の先につけるための石器が見つかります。



発掘の様子(酒呑場遺跡⑤)

縄文時代(約 15,000～2,300 年前) 氷河期が終わり、暖かな気候になった時代です。地面を掘りくぼめて床にし、柱を立てて屋根をかけた竪穴住居に住み、狩りをしたりドングリなどの木の实を採ったりして生活していました。梅之木遺跡⑩や坂井遺跡⑱などでは、たくさんの住居の跡が見つかりました。この地域には環状集落など大きなムラが多く発掘されています。発見された縄文土器にはイノシシやヘビなどの動物をモチーフにした個性的でダイナミックなものが多いです。

弥生時代(約 2,300～1,650 年前) 中国大陸から稲作が伝わり、土を盛った大きなお墓が造られるようになります。金ノ尾遺跡⑳では方形や円形の溝が掘られた周溝墓が造られていました。

古墳時代(約 1,650～1,300 年前) 豪族のお墓である古墳が造られました。大きなお墓や豪華な副葬品は権力の証でした。甲府盆地北西部には、古墳時代後期や終末期の古墳が多く残されています。北西部唯一の前方後円墳である物見塚古墳㉔や、山梨県で2番目に大きな横穴式石室をもつ加牟那塚古墳㉕が代表的です。

奈良・平安時代(約 1,300～800 年前) 仏教が普及し、政治制度が整った時代です。天狗沢瓦窯跡㉖では、お寺や役所などに使われた瓦が作られていました。

鎌倉時代以降 戦国の世であり、多くの山城や館が造られました。甲府市の武田氏館跡㉗の他、谷戸城跡①や新府城跡⑯などがあります。また、御勅使川や釜無川流域には武田信玄の治水事業との伝承がある遺跡もあります。将棋頭㉘や石積出㉙などの堤防は現在まで改修を重ねながら残され、水と人々との共存の歴史を教えてください。